

# 平成19年度事業報告

## (1) 学術集会および会務

### A) 学術集会

1. 第55回総会（平成19年6月1日～2日）  
会場：仙台国際センター  
会長：渡辺 彰（東北大学加齢医学研究所抗感染症薬開発研究部門）
2. 第54回東日本支部総会（平成19年10月26日～27日）  
会場：東京ドームホテル  
会長：堀 誠治（東京慈恵会医科大学薬理学）
3. 第55回西日本支部総会（平成19年10月30日～31日）  
会場：神戸国際会議場  
会長：荒川創一（神戸大学医学部附属病院手術部・感染制御部）
4. 本年関連国際学会として  
第25回国際化学療法学会（平成19年3月31日～4月3日・ミュンヘン）

### B) 会務

1. 年度末正会員数 4,009名  
年度末賛助会員数 33団体、団体会員数 227団体
2. 平成19年度評議員会、同定期総会は上述の第55回総会時に開催された。
3. 新評議員（平成19年5月～平成20年4月）  
東日本支部4名（現在227名）  
相澤 一雅（明治製菓（株）医薬開発部門臨床開発部）  
小早川信一郎（東邦大学医学部第一眼科学教室）  
高山 陽子（北里大学医学部臨床検査診断学）  
平岡 聖樹（ブリストル・マイヤーズ（株）研究開発部門開発研究部）  
  
西日本支部7名（現在211名）  
青木 洋介（佐賀大学医学部附属病院感染制御部）  
笠原 敬（奈良県立医科大学感染症センター）  
新里 敬（中頭病院内科・感染症科）  
速見 浩士（鹿児島大学医学部・歯学部附属病院血液浄化療法部）  
藤田 昌樹（福岡大学病院呼吸器内科）  
藤原 啓次（和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科）  
山本 新吾（兵庫医科大学泌尿器科）

#### 4. 理事会 7 回開催

平成19年4月、5月、7月、9月、10月、12月、平成20年2月

### C) 事業報告

#### 1. 編集委員会

##### 1) 日本化学療法学会雑誌 (委員長 宮崎修一)

・編集委員会 6 回開催

・編集状況

平成19年 第55巻

一般誌 6 冊 (掲載論文数 27 編)

新薬特集号 1 冊 (掲載論文数 21 編)

平成20年 第56巻

一般誌 3 冊 (掲載論文数 14 編)

その他編集中 1 冊

・日本化学療法学会電子情報配信誌「JSC-WIRE」の発行

##### 2) Journal of Infection and Chemotherapy (委員長 堀 誠治)

・編集委員会 11 回開催

・編集状況

平成19年

Vol. 13 No. 2～6 (掲載論文数 79 編)

平成20年

Vol. 14 No. 1～2 (掲載論文数 30 編)

その他編集中 1 冊

#### 2. 学術委員会 (委員長 石川睦男)

・認定学術集会 申請 21 件 認定 21 件 (平成18年度 申請 19 件、認定 19 件)

・学術奨励賞受賞者

第55回総会

山本和子 (長崎大学医学部・歯学部附属病院 第二内科)

「融解温度曲線分析法を用いたフルオロキノロン耐性肺炎球菌の検出と耐性化ポテンシャルをもつ肺炎球菌の警告」

日本化学療法学会雑誌

小林昌宏 (北里大学病院薬剤部)

「小児における teicoplanin の母集団薬物動態解析」

Journal of Infection and Chemotherapy

細坂泰子 (東京慈恵会医科大学医学部看護学科母性看護学)

「Characterization of oxacillin-susceptible *mecA*-positive *Staphylococcus aureus*: a new type of MRSA」

#### 3. 国際渉外委員会 (委員長 山中 昇)

1) 国内製薬企業から 25 回国際化学療法学会 (ICC) への協賛金を募り、

総額 760 万円の寄付金が集まった。全額を平成 19 年 3 月 1 日に国際化学療法学会 (ISC) 事務局へ送金した。

- 2) 北里研究所所長、大村智先生が 2007 Hamao Umezawa Memorial Award (HUMA)を授与され、平成 19 年 4 月 1 日第 25 回国際化学療法学会にて受賞記念講演が行われた。引き続き戸塚恭一理事長を発起人代表として、祝賀会が開催された。
- 3) 平成 19 年 4 月 2 日にミュンヘン国際会議場において国際化学療法学会評議員会が開催され、日本化学療法学会から戸塚恭一理事長、山中 昇国際渉外委員会委員長が出席した。
- 4) 国際化学療法学会評議員会では理事選挙が行われ、4 名の新理事が選出された。
- 5) 国際化学療法学会新評議員として、戸塚恭一、山中 昇、河野 茂の 3 名が選任された。
- 6) 次期 ISC President として、イタリアの T. Mazzei 教授が選出された。
- 7) 第 26 回国際化学療法学会は 2009 年にカナダのトロントで開催される予定で、学会長の R.Saginur 教授が挨拶された。
- 8) 第 47 回インターサイエンス会議(ICAAC) (平成 19 年 9 月 17-20 日、シカゴ、米国) ポスターサマリーセッションに Co-chairperson 派遣 (岩田 敏理事)

#### 4. 臨床試験委員会 (委員長 公文裕巳)

平成 20 年 2 月に萬有製薬より MK-3009 (Daptomycin) に関する開発・臨床試験相談依頼を受諾した。

#### 5. IRB 設置検討委員会 (委員長 渡辺 彰)

[学会定款変更 (学会 IRB 事業追加) ]

- ・定款変更を決定 (6 月 1 日 第 55 回総会にて議決)

[学会 IRB 運営手順書制定]

- ・委託先手順書原案をワーキンググループで精査検討
- ・ワーキンググループ手順書修正案を委員会にて審議
- ・現行 GCP 省令対応手順書最終案を決定

[現行 GCP 省令運用通知 IRB 設置学会役員条件解釈]

- ・役員条件の規制当局解釈を確認 (運用通知抵触可能性大の回答)
- ・改正 GCP 省令案に対するパブリックコメント提出 (運用通知改正を要望)

[委員会活動修正方針 (10 月 26 日 第 2 回合同会議にて決定) ]

- ・改正 GCP 省令運用基準設定動向により学会 IRB 設置可否を判断
- ・委員会活動を当面減速
- ・学会 IRB 設置可の判断による委員会活動再開に向け最小限の準備作業
- ・平成 20 年 6~7 月の IRB 審査受託受付開始予定を延期

#### 6. 抗菌薬安全性評価基準検討委員会 (委員長 渡辺 彰)

新たな臨床検査値評価基準策定に向けて、CTCAE (Common Terminology Criteria for Adverse Events) 規準を参考に、各社保有の臨床データを分析し、第 3 回 (東京:平成 19 年 1 月 25 日)、第 4 回 (仙台:平成 19 年 6 月 1 日) および第 5

回（東京：平成19年12月7日）委員会にて有害事象と判定する臨床検査値変動基準案を策定した。現在、中間報告書を作成中である。

#### 7. 抗菌薬皮内反応検討委員会（委員長 岩田 敏）

- ・平成19年6月26日 19年度第1回委員会開催 アンケート結果の集計
- ・平成19年7月28日 19年度第2回委員会開催
- ・平成19年10月27日 第54回東日本支部総会において委員会報告を行った。

#### 8. PK/PD 検討委員会（委員長 堀 誠治）

- ・臨床 PK/PD ガイダンス案を作成し、会員よりのコメントを収集した。
- ・小児臨床 PK/PD ガイダンス作成のための情報を収集した。
- ・非臨床 PK/PD ガイダンス・臨床 PK/PD ガイダンスの一体化を了承し、準備を開始した。

#### 9. 抗菌薬臨床試験指導者制度委員会（委員長 青木信樹）

##### 1) 抗菌薬臨床試験指導者講習会開催（年3回：30、31、32回）

第55回日本化学療法学会総会：2007年6月2日（仙台）

第54回東日本支部総会：2007年10月27日（東京）

第55回西日本支部総会：2007年10月31日（神戸）

##### 2) 委員会開催

平成19年7月27日、10月26日に委員会を開催した。また、平成20年2月1日にワーキング委員会を開催し、抗菌薬臨床試験指導者制度改定案を固めた。

主な改定点は以下のとおり。

- ・従来の抗菌薬臨床試験指導者制度は抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度としてほぼ同様に据え置き、その下部に抗菌薬臨床試験認定医、認定者制度を追加する。

#### 10. 抗菌薬化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 三笠桂一）

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催
  - 第1回 平成19年10月25日 東京ドーム 受講者 430名
  - 第2回 平成19年10月29日 ホテルオークラ神戸 受講者 385名
- ・平成20年1月1日付けで指導医（27名）・認定医（8名）・認定歯科医師（4名）を認定した
- ・第3回1日コースの内容を網羅するテキストを作成し、発行予定。執筆者を選定した
- ・委員を4名追加した。

#### 11. 認定感染症治療薬剤師制度委員会（委員長 堀 誠治）

- ・名称を“日本化学療法学会認定感染症治療薬剤師”とした。
- ・規程案を作成した。

#### 12. 抗菌薬ブレイクポイント委員会（委員長 門田淳一）

平成19年4月10日：第1回委員会開催

平成 20 年 2 月 8 日：第 2 回委員会開催

- 1) 18 年度の策定以降の新薬（Doripenem における呼吸器感染症と敗血症、Linezolid における呼吸器感染症、Moxifloxacin の呼吸器感染症）についてブレイクポイント策定の検討を行った。
- 2) 学会員よりこれまで化学療法学会において策定したブレイクポイントについて一覧としてホームページ等で公表して欲しい旨の申し入れがあったことをうけ、本委員会としては一覧を掲載することに何ら問題はないとの結論に達した。上記を平成 20 年 2 月 12 日の理事会に報告した。

### 13. 抗菌薬感受性測定法検討委員会（委員長 永山在明）

寒天平板希釈法の最終報告を日本化学療法学会雑誌 56 巻 1 号に掲載し、Journal of Infection and Chemotherapy（英文誌）に英訳版を投稿した。

### 14. 抗菌薬感受性試験微量液体希釈法検討委員会（委員長 山口恵三）

- ・ 2008 年 1 月 10 日に第 1 回目の委員会を開催した。
- ・ 現在の微量液体希釈法による抗菌薬感受性試験の問題点について、日本化学療法学会員および日本臨床微生物学会員の検査関連施設にアンケートを依頼した。
- ・ 2 月 15 日、21 日に日本化学療法学会員および日本臨床微生物学会員に、それぞれアンケートを送付した。3 月中旬にアンケートを回収し解析した。
- ・ 3 月 31 日に第 2 回の委員会を開催し、アンケート解析結果を元に、本委員会による改訂すべき内容を決定し、今後のスケジュールを検討した。

### 15. サーベイランス委員会（委員長 二木芳人）

- 1) 3 回の委員会を開催した[（第 10 回 平成 19 年 6 月（東京）、第 11 回 平成 19 年 10 月（東京）、第 12 回 平成 20 年 2 月（長崎））]。その他ワーキンググループによる検討会を 8 回実施した。
- 2) 第 1 回サーベイランスの成績発表
  - ・ 2007 年 10 月第 48 回 ICAAC（シカゴ）でポスター発表。
  - ・ 2007 年 11 月 Journal of Infection and Chemotherapy（JIC）に投稿。
- 3) 第 2 回サーベイランス（RTI）の実施
  - ・ 全国 32 施設より収集した 1108 株について 44 薬剤の感受性測定及び解析を終了し、成績を参加施設、賛助会員に報告した。
- 4) 第 3 回サーベイランスの実施
  - ・ 従来 RTI に加え UTI（複雑性尿路感染症）の 2 領域について実施中。RTI は全国約 50 施設で 7 菌種 1500 株を目標とし 44 薬剤の感受性を測定、UTI は全国約 40 施設で 6 菌種 2000 株を目標とし、37 薬剤の感受性を測定する。
- 5) 2009 年より本事業を日本感染症学会、日本臨床微生物学会の三学会合同で実施することを決定した。それにともない事業推進の円滑化のために三学会間の調整を行う「三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス運営委員会」を設置した。

### 16. UTI薬効評価基準見直しのための委員会（委員長 松本哲朗）

UTI 薬効評価基準第 5 版をほぼ完成させた。

**17. 抗真菌薬臨床評価委員会（委員長 河野 茂）**

「第 I 層試験のありかた」、「標的治療に関するプロトコル案」がほぼ完成した。  
経験的治療と予防投与については、20 年度以降に完成予定。

**18. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会（委員長 河野 茂）**

平成 19 年 4 月 10 日第 8 回委員会から平成 20 年 3 月 14 日第 14 回委員会まで、  
計 7 回の委員会を開催し、抗菌薬臨床評価ガイドラインの改訂作業を行い、ガイドラ  
インの改訂案を策定した。

**19. 術後感染予防薬評価に関するガイドライン委員会（委員長 竹末芳生）**

日本化学療法学会雑誌 5 6 巻 2 号に「術後感染予防抗菌薬臨床試験ガイドライン  
(2007 年)」を掲載した。

**20. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会（委員長 三嶋廣繁）**

改訂作業に入るため「嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会」を立ち上げ、  
委員を選出した。

**21. 深在性真菌症に対する抗真菌剤の適正使用等のガイドライン作成委員会  
(委員長 河野 茂)**

平成 19 年 1 月を皮切りに、5 回の作成委員会を開催し、ガイドライン内容の決定、  
執筆、読み合わせ、編集を経て、平成 19 年 12 月末に、「一般医療従事者のための  
抗真菌薬使用ガイドライン」として最終原稿が完成し、厚生労働省に提出した。

**22. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 斎藤 厚）**

- 1) 症例登録は 78 件（2008 年 3 月 19 日現在）あった。
- 2) 2007 年 6 月 2 日の第 1 回レジオネラ治療薬評価委員会を開催した。
- 3) 第 54 回日本化学療法学会東日本支部総会（2007 年 10 月 27 日）において、中間  
報告をおこなった。
- 4) 菌株収集が思わしくないため（2007 年 3 月 19 日現在 4 株）、三菱化学メディ  
エンスの菌株購入について検討した。
- 5) 新規の参加薬剤と会社名変更等があり、パンフレットの変更作業を開始した。

**23. 呼吸器感染症における新規抗微生物薬の臨床評価法見直しのための委員会  
(委員長 河野 茂)**

- ・検討委員の選出を行った。
- ・平成 20 年 3 月 15 日第一回委員会開催した。

**24. 抗MRSA薬適正使用委員会（市販後調査）（委員長 戸塚恭一）**

ICD 資格保持者の施設にアンケートを送付した。

25. 保険適応委員会（委員長 柴 孝也）

特になし

26. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

平成19年12月 認定者39名（申請者39名）、更新者112名

## 平成20年度事業計画

### (1) 学術集会および会務

#### A) 学術集会

1. 第56回総会（平成20年6月6日～7日）  
会場：岡山コンベンションセンター  
会長：公文裕巳（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学分野）
2. 第55回東日本支部総会（平成20年10月23日～24日）  
会場：大宮ソニックシティ  
会長：佐藤吉壮（富士重工業健康保険組合総合太田病院小児科）
3. 第56回西日本支部総会（平成20年12月6日～7日）  
会場：広島国際会議場  
会長：竹末芳生（兵庫医科大学感染制御学）
4. 本年関連国際学会として  
第11回西太平洋化学療法・感染症学会  
（平成20年11月29日～12月3日・台湾）

#### B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について  
理事会年8回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応  
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、  
内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

#### C) 事業計画

##### 1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
  - ・6冊発刊予定
  - ・編集委員会を隔月開催する
  - ・日本化学療法学会電子情報配信誌「JSC-WIRE」を月1回配信
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
  - ・編集委員会を開催する
  - ・2008年にVol.14, No.1～6の6刊の発刊を予定する。
  - ・Impact factorの申請を行う

##### 2. 学術委員会

認定学術集会の認定および学術奨励賞を選考する。

### 3. 国際渉外委員会

- 1) 第50回韓国化学療法学会（平成20年5月9日、ソウル）において日本化学療法学会とのJoint Symposiumを開催し、座長（戸塚恭一理事長）、シンポジスト2名（二木芳人理事、岩田 敏理事）を派遣する。
- 2) 第48回インターサイエンス会議(ICAAC)（平成20年10月25-28日、ワシントンDC、米国）ポスターサマリーセッションにおいてCo-chairpersonを派遣する。
- 3) 11th Western Pacific Congress on Chemotherapy and Infectious Diseases (Nov.29-Dec.3, 2008, Taipei, Taiwan) においてSponsored Symposiumを開催し、シンポジストを派遣する。
- 4) その他（国際化学療法学会関連の主な国際学会）
  - ①13th International Congress on Infectious Diseases (ICID) Organized by the International Society for Infectious Diseases (ISID), 19-22 June, 2008 , Kuala Lumpur, Malaysia
  - ②9th European Congress of Chemotherapy and 16th Mediterranean Congress of Chemotherapy, 8-11 November 2008, Istanbul, Turkey

### 4. 臨床試験委員会

依頼があれば適宜、対応していく予定である。

### 5. IRB 設置検討委員会

[学会 IRB 設置可否判断前（委員会活動準備）]

- ・ IRB 運営手順書案を改正 GCP 省令対応に見直し
- ・ IRB 審査受託料金の算定根拠を検討

[学会 IRB 設置可判断後（委員会活動再開）]

- ・ 委員会活動スケジュールを見直し決定（以下、当スケジュールに準拠）
- ・ IRB 運営手順書案を改正 GCP 省令運用通知対応に見直し決定
- ・ IRB 委員長、委員、事務局長を選任し委嘱
- ・ IRB 事務局を設置（事務局業務委託先を選定、委託契約を締結）
- ・ IRB 審査受託料金を設定（審査諸経費を算定）
- ・ IRB 審査受託の広報を開始
- ・ IRB 審査受託の受付を開始

### 6. 抗菌薬安全性評価基準検討委員会

臨床検査値変動基準案の中間報告書を学会誌に掲載しパブリックコメントを募った上で最終報告書を作成する。それに引き続き、安全性に関する臨床症状評価基準の改訂作業を開始し、評価基準案を策定後に臨床検査値変動基準と併せて「抗菌薬安全性評価基準（最終委員会報告案）」としてまとめ、学会HPに公開し、パブリックコメントを踏まえて最終化した上で、新基準として確定させる。

### 7. 抗菌薬皮内反応検討委員会

昨年度にまとめたデータに平成19年度に厚生労働省に報告された死亡例およびショック・アナフィラキシー様症状発現例等のデータを加えて解析し、委員会報告と

してまとめる。

## 8. PK/PD検討委員会

- ・小児臨床 PK/PD ガイダンスを作成する。
- ・非臨床・臨床・小児臨床PK/PDガイダンスを一体としてPK/PDガイダンスとしてまとめる。

## 9. 抗菌薬臨床試験指導者制度委員会

- 1) 指導者制度講習会開催予定（年3回：33回、34回、35回）
  - ・第56回日本化学療法学会総会：2008年6月6日（岡山）
  - ・第55回東日本支部総会：2008年10月23日または24日（埼玉）
  - ・第56回西日本支部総会：2008年12月6日または7日（広島）
- 2) 改定に向けて委員会を開催する。

## 10. 抗菌薬化学療法認定医認定制度審議委員会

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定
  - 第3回 平成20年8月24日 九段会館
  - 第4回 平成20年6月7日 岡山コンベンションセンター
  - 第5回 平成20年10月22日 大宮ソニックシティ
  - 第6回 平成20年12月7日 広島国際会議場
- ・委員会を数回開催予定
- ・8月に「抗菌薬適正使用生涯教育テキスト」発行予定（会員は無料配布、非会員は有料）
- ・11月末：指導医・認定医・認定歯科医の認定申請締め切り
- ・12月：上記申請者認定のための作業委員会
- ・平成21年1月1日付けで認定予定

## 11. 認定感染症治療薬剤師制度委員会

- ・日本化学療法学会認定感染症治療薬剤師制度規程を完成させる
- ・認定のための内規を作成する
- ・第1回の認定を予定する

## 12. 抗菌薬ブレイクポイント委員会

- 1) 平成19年度に検討したブレイクポイント案について各メーカーに示し、意見を求めた後、理事会に上程・承認を得た後、学会ホームページでパブリックコメントを求め、正式にブレイクポイントを決定する。
- 2) 化学療法学会において策定したブレイクポイントについて、一覧としてホームページ等で公表することを予定している。

## 13. 抗菌薬感受性試験微量液体希釈法検討委員会

1. ヘモフィルス属菌に対する検討
  - 1) CLSI法 HTM 培地と、日本化学療法学会法培地の QC 株を用いた比較試験 HTM 培地、化学療法学会法培地のそれぞれの基礎培地およびサプリメントを

各 3 ロットおよび CLSI に推奨されている QC 株 *H.influenzae* ATCC 49247、*H.influenzae* ATCC 49766 を全国 7 施設に配布し、それぞれ 8 薬剤を対象に微量液体希釈法を実施する。

2) 共通菌株、各施設臨床分離株を用いた比較試験

1) の検討において施設間差、培地のロット間差がみられなかった場合、上記施設のうち 3 から 5 施設を選び、同一ロットの培地を用いて共通の *H.influenzae* 30 菌株 (BLNAR, BLPAR, BLNAS を含む)、各施設により分離される臨床分離株 30 菌株を用いて微量液体希釈法を CLSI 法および化学療法学会法にて実施し、発育支持能、抗菌薬耐性株の適切な判定ができるかなどについての評価を行なう。

※CLSI 法の HTM 培地における試験菌の発育が極めて悪いことから、日本化学療法学会法と比較し、その優位性を CLSI に提案することも視野に入れ、CLSI が推奨する試験デザインおよび試験規模を設定した。

2. 肺炎球菌に対する CLSI 法培地、化学療法学会法培地の比較試験

インフルエンザ桿菌と同様の手順で行なう。QC 株は *S.pneumoniae* ATCC49619 を用いる。

※ただし、インフルエンザ桿菌の検討事項が優先され、本菌に対する検討はこれらの進み具合を見て検討するかどうか考慮する。

3. 新しく報告されている各種耐性菌(MLs 耐性連鎖球菌、ESBL 産生腸内細菌)を見落とさない測定法(接種菌量、培養時間など)の確立

※genotype と phenotype の相違など

4. 1～3に関連して各菌種における MacFarland No.0.5 と実際の菌量と MIC 値に及ぼす影響について検証する

5. アンケート解析によって浮かび上がった現場の検査室で困っている問題点の基礎的解析

以上の検討を行ない、年度末に検討会を開催する。

#### 14. サーベイランス委員会

1) 第 1 回サーベイランス成績の JIC 掲載。

2) 第 2 回サーベイランス成績を第 13 回国際感染症学会 (2008 年 6 月、クアラルンプール) など関連学会で発表。また、JIC に投稿する。

3) 第 3 回サーベイランスは 2008 年 12 月末までに収集した菌株 (RTI、UTI) の感受性測定及び解析を終了し、2009 年 3 月末までに成績をまとめる。

4) 第 1 回三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス (2009 年) の実施要綱を 2008 年 9 月末までに作成し、2009 年 1 月から菌株を収集する。

#### 15. UTI薬効評価基準見直しのための委員会

UTI 薬効評価基準第 5 版を Fix し、11 月開催の尿路感染症研究会のシンポジウムでコメントを求め、また別途日本化学療法学会雑誌にも掲載してパブリックコメントを求め最終案を完成する。従って、平成 20 年度は、さらに 1～2 回程度の会議を行う

予定である。

#### 16. 抗真菌薬臨床評価委員会

- ・「経験的治療」のエントリー基準について、6月10日に委員会開催の予定。
- ・本年度内に、「経験的治療に関するプロトコル案」フィックスを予定。また、本年度より予防投与に関する検討も開始した。

#### 17. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会

今年度中早期に、学会ホームページにより、会員に閲覧を行い、会員の総意を得て、発行予定。

#### 18. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会

「嫌気性菌感染症診断・治療のガイドライン」の改訂に取り組むため、委員会を数回開催の予定。

#### 19. 深在性真菌症に対する抗真菌剤の適正使用等のガイドライン作成委員会

厚生労働省の校正を受け、校正が終了した時点で、改めて編集作業を行う予定である。校正・編集が終了した後に、厚生労働省から手引きとして発表、アナウンスされる。また、製本化し普及を計る予定である。

#### 20. レジオネラ治療薬評価検討委員会

- 1) 新規パンフレットを作成し、参加会社に再度配布を依頼する。
- 2) レジオネラ肺炎の症例登録と菌株収集を継続して実施する。
- 3) 収集した症例の検討会を開催し、抗菌薬の有効性と安全性について検討する。
- 4) 収集した菌株等の各種抗菌薬の抗菌活性を測定する。
- 5) 各社よりデータを収集し、中間の解析を行う。

#### 21. 呼吸器感染症における新規抗微生物薬の臨床評価法見直しのための委員会

3～4回の委員会を開催予定

#### 22. 抗MRSA薬適正使用委員会（市販後調査）

アンケートを集計し、結果をまとめ厚生労働省に報告書を提出する予定。

#### 23. 保険適応委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

#### 24. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成20年10月31日